

未来デザイン部がY-SDGs 認証事業者“（株）横浜赤レンガ”のSDGsの取組をインタビュー 横浜赤レンガ倉庫で再生可能エネルギーの地産地消も始まる！

みなとみらい 21 地区を代表する商業施設の 1 つである横浜赤レンガ倉庫を運営する（株）横浜赤レンガは、2023 年に横浜市の SDGs 認証制度 Y-SDGs の最上位である Supreme（スプリーム）を取得しました。

ちょっと楽しい、ちょっと面白い、ちょっとかっこいい、そして、無理をしない「笑う、サステナブル」を掲げ、SDGs に関する様々な取組を行う横浜赤レンガ倉庫で、2024 年 11 月から再生可能エネルギーの地産地消が開始されました。

横浜市内の高校に通う高校生で結成された「YOKOHAMA 未来デザイン部」のメンバーがそれらの取組取材しました。



赤レンガ倉庫の歴史と秘密

未来デザイン部（以下**未**）親とも話しをして気になったことなのですが、このみなとみらい 21 地区を代表する建物がなぜ赤いレンガで作られているのだろうかということ。この倉庫の利用目的も詳しく知りたいです。



横浜赤レンガ（以下、**赤**）江戸から明治、大正、昭和と時代が移り変わり、開港のタイミングで近代建築が花開く真ただ中に建てられたものです。欧米に近づけということで、ヨーロッパの建物に習うように、大きい建物を建てるために、コンクリートの技術が無かったのでレンガになりました。諸説ありますが、赤いレンガが当時は中心だったと聞いています。

未 2号館と1号館の長さが違うのはなぜですか。

赤 それでは、まず、赤レンガの歴史を簡単に紹介します。横浜港開港のタイミングで、2号館が先に1911年に、その後1913年に1号館が建ちます。先に建った建物がなぜ2号館かという、海から見た建物が正面と言われており、海

から見た順で番号が決められ、創建とは違う順序になっています。赤レンガ倉庫は、当時日本が世界に誇る最新鋭の倉庫で、荷物用のエレベーターやスプリンクラーなどの消火設備が日本で初めて備えられました。ご質問の長さは、1923年の関東大震災の際に、1号館の真ん中あたりが崩落してしまい、その建物を修復して、現在の長さになっています。

未 1号館は縦に長かったのですか。

赤 元々は2号館と同じ長さで立っていたものが半分程になっています。

今、スケートリンクがあるところあたり、横断歩道の前まで建物がありました。中央部分の倒壊で、全部を復元するよりは壊して、新たに壁を立てて復元した方が費用的に抑えられたと聞いています。

未 そのイベントスペースができたことで、今となっては楽しみが増えています！

未 海外の方もたくさん来ていますが、どうして倉庫から観光スポットにしたのでしょうか。

赤 横浜市の「港の賑わいと文化を想像する空間」というコンセプトでは、「2号倉庫はウォーターフロントの立地を活かして、食文化を中心に、エンターテインメント溢れる賑わいと憩いの空間とすること」が定められています。これに則って横浜市民の方をはじめ、多くの皆様楽しんでいただけたら

に運営をしています。

未 どれぐらいの方が来ているのですか。また、皆さんどこから来ていますか。

赤 2023年度は1年間に810万人のお客様にお越しいただいております。横浜市観光協会の人流調査データによると、その内8割が神奈川県民の方です。その他、海外からのお客様が約1割、残りの1割が神奈川県外の国内からのお客様になっています。

海外で言えば、アジア圏が最も多く、その次にアメリカ圏、ヨーロッパ圏といったお客様が来られます。赤レンガ倉庫で働くことと色々な言語を耳にします。

未 今ちょうど冬で、クリスマスシーズンはスケートリンクもありますが、他にどのようなイベントを、どれぐらい行っていますか。

赤 イベントは、（株）横浜赤レンガで企画・運営するものと他の主催者の方に場所を貸出して実施するものの2種類があります。

2023年度は、主催と貸出イベントを併せて、計65件のイベントを実施しています。開催期間が長いものもあるので、ほぼ毎週末に何かしらのイベントを開催しています。我々が主催するイベントは四季折々のイベントを楽しんでもらいたいという思いで、色々と開催しています。

未 イベントを通して、伝えたいこと、広めたいこと、コンセプトを教えてください。

赤 赤レンガ倉庫が歴史ある建造物であり、お客様には時代を超え

た本物を大切にしたい心や体験価値を提供したいと思い、企画を立てています。

オクトーバーフェストやドイツが本場と言われるクリスマスマーケットは、この赤レンガ倉庫の建物がドイツの建築様式を取り入れたと言われているので、本場感を感じられるという意味で、ドイツのイベントを多く開催しています。世界観の演出は、社員みんなで一生懸命考えており、時には実際にヨーロッパに視察に行きイベントを体験して、赤レンガでできることを考えています。

未 今クリスマスマーケットやっていますが、ツリーってどこの国のものですか。

赤 ツリーは国内から持ってきています。これも実際に社員が山に行き選んでいます。

未 そうなのですか！凄いい！！びっくり！！ちなみにどこですか？

赤 東北に行くことが多いですね。ちなみに、毎年新たな木を使用しているわけではなく、イベント終了後に、横浜市内の山に移して保管をしています。保存状態が良ければ、次の年も使用しています。



クリスマスマーケットのツリー

未 枯れてしまった場合はどうしているのですか。

赤 実は、枯れた木も再利用しています。他のイベントのオブジェとして使われていたりします。

(株) 横浜赤レンガの SDGs

未 1番関係している SDGs の番号は何番ですか？

赤 はじめにご紹介ですが、横浜赤レンガ倉庫のサステナビリティで「笑う。サステナブル」というコンセプトを掲げています。これは、イベントに参加しながら、赤レンガ倉庫を楽しみながら、気づいたらサステナブルな取組に参加していたというような場を提供したいと思って掲げています。大きくは、地域を活性化させて街が笑う、集まった人々が協力して地球が笑う、テクノロジーを活用すると未来が笑う、働き方を変えると人が笑うという四つの取組を進めています。そして、去年横浜市のY-SDGs の認証の中での最上位の supreme を取得しております。

サステナビリティコンセプト



未 未来デザイン部なのに、知らなかった。コンセプトに「笑う」があって、難しく無さそうで親近感が湧きます！

赤 Y-SDGs では、8番の働きがいと経済成長、10番の住み続けられるまちづくり、17番のパートナーシップで目標を達成しようの取組を評価していただきました。取組の一例としてイベント会場の中で脱プラの取組を進めていて、お皿やフォークなどは紙の素材を使っています。(株) 横浜赤レンガで働いているスタッフは50%以上が女性です。また、横浜市と協定を締結して、地域のにぎわいや経済活性化の取組を行っています。会社の基本理念でもありますが、みなとみらい21地区の回遊性を高めるというのが、我々のミッションとしてあると思うので、エリアの賑わいや発展に貢献する施設であり続けられるようにと常に考えています。この取組の一例として、年3回、近隣施設と連携して、ベイウォークマーケットというイベントを開催し、海側を散歩していただけるよ

うにマルシェをいっぱい並べるイベントを開催しています。

未 どうして SDGs に関するたくさん取組をされているのですか？

赤 理由は、先ほどの来訪者が年間810万人以上とお話ししましたが、多くのお客様で賑わっている集客施設だからこそその果たすべき社会的責任があると感じています。また、横浜市と一緒に取り組んでいる事業でもあり、この事業活動を通じて持続可能な社会の実現は目指していこうと考えています。

司会 皆さんは、普段行く施設で SDGs をしている施設ということ意識していますか。

未 していません。書いているところがあまりなく、アピールがされていないのかもしれない。810万人の人が来る施設で取り組んでいるとその波及効果が凄いいと思います。

未 日常的にそのイベント以外で行っている SDGs があったら教えてください。

赤 飲食店舗での使用後の油の新たな活用を昨年からは始めました。フライドポテトなどの揚げ物で油を使います。その食用油はある程度使うと捨てることになります。これをリサイクルしていたのですが、昨年からはそれをもう一つ進めようということで、使用後の油を S A F (サブ) に変えるという取組「Fry to Fly Project」に参加しています。



「Fry to Fly Project」のシンボル

皆さん S A F は聞いたことありますか？

未 名前だけ。

司会 グループとして取組も始められている ENEOS Power さんから簡単にご説明いただけますか。

ENEOS Power (株) (以下、E)

SAFは、Sustainable aviation fuelの略称で、持続可能な航空燃料のことです。飛行機が飛ぶ際にたくさん燃料を使います。SAFは化石燃料から作られるジェット燃料に比べて、CO2の削減ができます。カーボンニュートラルを推進する観点として、代替燃料となることが期待されていて、国も主導して取組が始まっています。

赤 食用油は家畜の飼料や色鉛筆の原料になり、国内消費でリサイクルはされていたのですが、国内消費量よりも海外に持っていくものが多い中、わざわざ船で海外に持っていくのではなく、SAFにして国内消費を増やす方が、無駄がないそうです。昨年10月から取組を始めて、3月までの5ヶ月間で約10トンを提供しました。国内では工場ができあがり、テスト稼働が始まったところで、今後SAFの材料になっていくと聞いています。今年度は、年度末までに15トンぐらいになると思います。また、昨年度、横浜市が実証実験をやっていた、空のペットボトルを回収して新たなペットボトルに再生していく「ボトル to ボトル」という取組にも参加をさせてもらい、1か月間で約128kgが集まりました。2025年から横浜市で新たに取組が始まるので、そこにも参加をしていきたいです。年間に7~8トンぐらいは回収できる見込みで、1番のポイントは、分別がされないと回収ができないので、考えながら取組みたいと思っています。



みなとみらい21地区で取り組む「ボトル to ボトル」広報ポスター

未 赤レンガ倉庫で取り組むことでトンという単位でリサイクルや資源が集まることが凄いです!

赤 イベントで行っているカトラリーや皿、コップなどを紙や木の材質に変えていく脱プラの取組も館内店舗の一部でも取組を続けていきます。

未 SDGsの取組を教えてもらって取組の理解が増したのですが、学校生活で反映されている実感がないし、知り渡っていない部分もあるなど感じました。高校生を巻き込んでできる取組はありますか?



赤 それがまさに課題だなと感じています。地域の皆さんや高校生の皆さんと一緒に何かできないかなということ、日々考えています。イベントでの取組は分かりやすいですが、その他にレッドブリックハブという取組があります。例えば、横浜市内の企業と企業がコラボレーションして、新しい価値を作り出すような取組なのですが、そういうところでアイデアを一緒に出してもらえたらいいなと思っています。

未 電気の消費量を抑える工夫はありますか?

赤 一番大きな取組としてはLED化です。2008年頃から全館でLEDを導入しています。2012年と比べると、約3割の消費電力が削減できています。一般的に今の製品は寿命が4万時間で10年持つと言われていて、一日8時間点灯して365日の計算です。赤レンガ倉庫は1日約14時間点灯しているので、1.5倍の速度で消費していくイメージ。交換を重ねて、今は第四世代になります。明るさもその都度明るくなっています。

再生可能エネルギーの地産地消

司会 SDGsの取組としても、電気の話ができました。この赤レンガ倉庫で11月から始まったのが、再エネ電気の地産地消です。その電気を供給しているのが ENEOS Power(株)です。まず、ENEOS Powerについて教えてください。

E まずは、ENEOS と言えば、ガソリンスタンドで見かけたことがあるのではないかと思います。ENEOSは石油の元売であり、石油製品の精製や販売等を行う会社です。2003年から電力の販売を実施しています。なぜ電気を販売できるのかというと、製油所における石油精製を行う過程において、生み出される残渣油等を活用して電気を発電しているからです。それを2003年から特別高圧・高圧というたくさんの電気を使う工場やビルなどへ販売を開始し、その後、2016年からENEOSでんきというブランドでご家庭向けの電気の販売も始めました。

2024年の4月から分社化し、ENEOS Powerとして電気の販売やガスの販売もしています。最近では、カーリースや電気自動車の充電サービスなど新しい社会の形をつくる取組を ENEOS グループ一体となって取り組んでいます。本日は、2024年の11月から横浜赤レンガ倉庫へ再生可能エネルギーの地産地消の電気を送らせていただくということにきっかけに、このような会に参加させていただきました。

未 再生可能エネルギーの地産地消をホームページなどで調べてみたのですが、あまりよく分からないので、詳しく教えてください。

E まず、再生可能エネルギーとは何だろう?というところから。再生可能エネルギーってなんだと思いますか。

未 もう1度使えりとか、リユース・リデュース・リサイクルできる資源なのではないかと思います。

E 具体的にどういうものがあるか知っていますか?

未 風力発電、太陽光、地熱、バイオマス、水力・・・

E いいですね、だいたい出尽くしたと思いますが、今言っていたものは全て再生可能エネルギー

ギーです。定義は、エネルギー源として、永続的に利用できるものとされています。色々ありますが、太陽光、風力、水力、地熱、バイオマスとだけいただければ十分です。その中で、皆さんが一番馴染み深いのは、おそらく太陽光だと思います。ご自宅の屋根の上に太陽光パネルがある家の人はいますか。

未 私の家はのっています。

E それは太陽光で発電し、おそらくその電気を自宅で使っていると思います。他に太陽光発電の設備がある場所としては、学校などがあると思います。学校において太陽光発電をして、その電気を自家消費する取組を横浜市がやっています。皆さんの学校はどうですか。

未 分からないな。屋上に入れない。

未 通っていた小学校にありました。

c ご質問の「地産地消とは？」ですが、自宅や学校など自分のところにある太陽光発電設備で発電した電気はその場所で使うことが多いと思います。これも地産地消です。でも使いきれない電気が当然に出てきて、これ捨ててしまうのはもったいないので、それを ENEOS Power (株) が買取りをさせていただいています。横浜市内のお客さまから買い取って集めた電気を横浜市内の施設で使ってもらうことは、横浜市内における地産地消という取組になります。実際に11月から、横浜市内のご家庭で発電された電気を横浜赤レンガ倉庫さんに供給をさせていただいています。



未 発電というとあまり馴染みがないし、難しいイメージがありました。

E 発電所というと大きなものや遠いところにあるというイメージがあるかもしれませんが、ご自宅も再生可能エネルギーを作る発電

所の1つです。1つだと規模は小さいけれど、集まれば大きな施設にも供給できるようになります。

「自宅が発電所？」と思うかもしれませんが、SDGsに貢献する可能性は十分にあります。



ご家庭の余剰電力を集めるイメージ

未 地産地消の利点や課題を教えてくださいませんか。

E いい質問ですね。三つメリットがあると考えます。

一つ目が効率の話です。極端な例ですが、自分の隣の家に発電所を作って電気を使うのと、例えば私の出身地の大分に発電所を作ってその電気を使うと仮定します。電線で電気を送るわけですが、電気を送る間のロスが変わってきます。近くで電気をつくることでロスが減り、省エネや環境負荷の低減にも繋がります。

2つ目がエネルギー供給のリスク分散です。例えば、とても大きな1つの発電所からすべての家庭に電気が供給されているとします。仮にこの大きな発電所が何かしらのトラブルで止まってしまった場合、全家庭に電気が供給されなくなり大停電になってしまいます。もしこの大きな1つの発電所に頼ることなく複数の電源があれば、このようなリスクが分散されます。ご自宅に発電設備があれば、停電時にその電気を使うということもできます。災害時のライフラインの確保にもつながっていきます。

3つ目は、地域の活性化です。地元で電気を作り、売電することで地域の収入増につながる可能性があります。仮にその電気を扱う会社ができれば雇用が生まれます。そこに人が集まってきて、商売になると経済活動につながります。それ以外にも地産地消がブランディングにつながるということもあります。環境をどうPRするかということにもなりますが、そういう場所に行きたい、そういう施設で買い物したいなど集客につながる

ことで商売繁盛し、地域の活性化やブランディングにつながってくるのではないかと思います。

未 新しい発見です。そんな視点で考えたことありませんでした。

E 皆さんは電気を再生可能エネルギーにしたいと思ったことありますか。まだ、考えたことないかな。そういう環境づくりや雰囲気づくりは、SDGsの観点からも会社として大切だと思っています。小売電気事業者という立場から、皆さんのような若者とも会話をしながら、活動していかなければならないと思います。特に横浜市では、脱炭素先行地域という、2030年にみなとみらい21地区を脱炭素化させようという取組をされています。行政機関や横浜赤レンガさんなどの企業とも協力してそういう雰囲気づくりをしていくことも我々のミッションだと思っています。

未 赤レンガ倉庫では、余剰電力をどのように使っているのですか。

E 電気には色も風味もありませんので、どう使うかを把握するのは難しいのですが、例えば皆さんのご家庭で太陽光発電があるとして、日中は学校や会社に行って誰も家で電気を使う人がいない時に、その電気が余ってしまうことがあるとします。一方で、赤レンガ倉庫では日中にたくさんのお客様が来て、エアコンや照明などで電気が必要だとします。同じ時間帯で余る電気と必要な電気を合わせるようなイメージ。1つ1つを物理的に紐づけできるものではないのだけれど、調整をして価値付けをしています。

未 そんなことをしているとは！無駄のない電気の使い方だ。



E 九州の方で顕著ですが、太陽光は昼間に発電しますが、電気を使う人がいないので余ってしまうことが起きています。無駄になってしまうので、有効活用を考えていかなければいけません。

未 この再エネの地産地消を行う前と比べて、どれだけ脱炭素に近づけましたか。

E 今回の取組で年間 440 トンの CO2 削減になります。皆さんは、木が CO2 を吸収することは知っていると思いますが、1トンの削減を杉の木で表すと何本分になると思いますか。

未 3本、5本、10本・・・

E 正解は、1トンで71本必要になります。今回は、440トンなので、3万1千本ぐらいの杉の木が1年間に吸収できる CO2 を削減できたことになります。

未 そんなにたくさんの本数が必要とは！



未 なぜ、再生可能エネルギーの地産地消を、今回なぜ赤レンガ倉庫で取り組まれたのですか。

E まずは、赤レンガ倉庫ではSDGsの取組を積極的にされていて、その想いもあって、我々もともに取り組んでいきたいと思いました。ENEOS Power(株)では、太陽光発電の余剰電力の買取りを全国でしていますが、その中でも横浜市内のご家庭で多くの電気を買取らせていただいています。それを市内の施設で使っていただくというこの地産地消を取り組むうえでは、脱炭素先行地域にも参画している赤レンガ倉庫はとても相性がいいと思いました。

ご家庭の余剰電力を集めて地産地消を行うこの取組自体が過去事例のない取組で、横浜赤レンガさん側も不安な部分もあると思うのですが、ご賛同をいただきました。横浜市を代表する施設の1つで、多くの方が知っている横浜赤レンガ倉庫にその電気を供給することで、私達の使命の1つである脱炭素の取組を皆さんにも知ってもらえて、再エネの地産地消を広げていけるのではないかと思います、一緒に取組めることを有難く思っています。

未 赤レンガ倉庫はなぜ取組を始めようと思ったのですか。

赤 皆さんは、赤レンガ倉庫の休館日はどれぐらいあると思いますか？正解は、年間1日です。早い店舗は、朝9時から夜は23時まで営業をしています。やはり大きな電気を使う施設です。まずは省エネを進めてきていますが、それでもたくさんの電気が必要です。2030年までの脱炭素化に向けて取組を進めていかなければいけないという中で、良いご提案をいただきました。ただ、コストの兼ね合いもありますので、一気に100%とはいけません、20%というところから1歩1歩前に進めています。

未 私は、再生可能エネルギーや余剰電力を使うことなど今日この場で初めて知ることができました。まだまだ、私たちのような学生で知らない人がたくさんいると思います。どれぐらい認知されているか、どうしたらそれを知ってもらえるか聞きたいです。



E 統計を取ったことがないのですが、ほとんどの方が知らないのではないかと思います。それは、おそらく、皆さんが電気代を払っているわけではないし、家を購入するわけでもない、当たり前なかもしれません。ただ、私たちは皆さんに知ってもらうことが社会にとって、とても大事なことだと思っています。私たちもこのような機会を広く持っていきたいと思っていますが、皆さんも今日学んだこと、感じたことを持ち帰って、家族や親戚、クラスメイトに話をしてくれたら嬉しいなと思います。そのようなことが1つ1つ積み重なっていくことで、取組も広がり、良い社会になっていくと思います。

未 別の話になりますが、私の家

の近くのスーパーでSAFの回収ボックスが置いてあるのですが、あまり目立たないし、気づいている感じがしません。それこそ高校に年に2、3回でも回収期間などがあるとみんな知る機会にもなるのではないかと思います。



店頭に設置された廃食油回収BOX

E 私は40代で、私の時代はリサイクルという話が主だったのですが、そこからエネルギーや人権などの分野も加わって、皆さんSDGsを学ばれていると思います。皆さんのご両親もSDGsを知らない世代で、皆さんの方が詳しいこともあると思います。皆さんが大人になっていく中で、そういう世界観の社会になっていくのだらうと思います。それに合致する取組を赤レンガ倉庫がやっている、そういう食材やサービスを使おうという価値観の変化も見据えて私たちも取り組んでいかなければいけないと思っています。

未 今後、再生可能エネルギーの割合を増やしていくにはどのようなことが必要だと考えていますか。

E 再生可能エネルギーは、メインがやはり太陽光です。太陽光は、晴れた日にしか発電できません。また、使う側も決まった量しか使えないので、どうしても余剰が出てしまいます。電気の難しいところは、シーソーをイメージしてもらいたいのですが、需要と供給が一致していないと停電がおきてしまいます。今後、国も再生可能エネルギーを増やす方針があるので、増えていくと思いますが、この需給バランスを取ることが一つ課題に上がってきます。解決策の1つが蓄電池で、昼に発電した電気を蓄電池にためて、夜に使う方法です。皆さんの家に1台という時代が来れば太陽光で電気をいっぱい

作って、ご自宅で無駄なく使うことができると思います。ただ、まだ蓄電池のコストが高いので、もう少し技術などの進展が必要です。もう1つが、連携線を増やすことがあります。これは九州から北海道まで電気を送る線のことで、繋がっています。電気は、例えば、東京電力や中部電力のように各電力会社のエリアで決まっています。足りない場合は、エリア間で融通するのですが、それができる量にも限界があり、課題にあがっています。例えば、九州であれば、日照も良く、土地もあって、太陽光でもっと発電できるとなっても、関西でその電気を使いたくても電気が送れないということも出てきてしまうということです。再生可能エネルギーは地方部でできることが多い電気です。連携線を強化することもポイントの1つです。

未 再生可能エネルギーによってコストは削減ができますか。

E 自宅に太陽光発電設備を置いて、その電気を使えば、電気を買わなくても良いことになります。太陽光で発電するので燃料も必要ありません。長く発電すればするほど、その分の電気代が削減につながります。ただし、その設備がいくらかということになります。再生可能エネルギーも安くなってきたものもありますが、今現在、再生可能エネルギーが必ずしも安いという状況にはありません。今はまだ、環境というプレミアムな価値がある感じです。まだ、技術の進展が必要だと思います。

未 脱炭素社会を目指す中で、私たち高校生は何をすべきかを教えてください。

E まずは、シンプルに今日学んだことを必ず皆さんの周りの方に伝えていっていただきたいということが一番なのかな。また、今日は再エネを増やす話もありましたが、省エネもとても大切です。皆さんが身近にすぐにできることでもあります。小さいところから1つ1つ行動に移すことが大事だと思っています。あとは、SDGsを皆さん勉強されているので、自分に落とし込むということやアウトプットして周りの方に伝えて、皆さんのような人たちをもっといっぱい増やしていただきたいです。皆さん

世代から親世代の方に伝えていくことで、大人の取組に繋がると思っています。

司会 話の中に、SDGsのヒントがたくさんあったのではないかと思います。最後に、未来デザイン部の皆さんから感想をお願いします。

未 今まで赤レンガ倉庫には、普通に遊びに行っていて楽しんでいただけだったのですが、本当に凄い努力をされていて、また色々と考えながら取組をされていることがよく分かりました。次回伺う際には思い返しなが訪れ、一緒に行く人に自慢話として伝えていきたいです。また、電気、太陽光の話は今まで難しいなと感じていたのですが、身近に感じられたし、私たちの取組が、世界を変えることに繋がると思うとやる気ができました。まずは電気を切るなど身近なことから始めていきたいと思いました。

未 再生可能エネルギーは安いから利用しているというのではなく、環境に与える負荷を考えて、高くても選択しているということが凄い印象に残りました。どこかに行く、買い物するということにも、そのような視点があることを知ったし、そういう取組をする企業を選ぶことでの貢献もあるのだなと思いました。



未 知らないことがたくさんあって、小さな時から何度も行ってきた赤レンガ倉庫もこんなにSDGsに取り組んでいることを知って、新鮮な気持ちになりました。また、電気の話は、電気代は親が払っているのに気にもしていなかったのですが、子供ながらに、省エネしないとダメだと思いました。電気は、とっつきにくいところがあって、自分たちが変えられることなのかなと思っていたのですが、今回、話を聞いて、小さなことからでも

できるということが分かったし、改めて考える機会になり、貴重な時間でした。

未 再エネはもともと大事だと分かっていたし、興味があったのですが、調べても難しいことばかりで、「結局どうすればいいの」「私たちは何もできない」と思っていました。でも、詳しい話を初めて聞いて、身近になりました。分かりやすく、自分たちもできることがある、普段の生活を少しでも変えることで再エネや地球環境にも影響与えられるのかなと思ったり、すごい良いことだなと感じます。赤レンガ倉庫については、去年もお話を聞いたことがあったのですが、今回は質問にも答えていただいて、去年より深い理解ができ、本当に詳しく知れたので、横浜にいる身として、みなとみらいや赤レンガ倉庫に遊びに行く立場として、すごい誇らしくなりました。



未 とても貴重な時間となりました。全体的になるのですが、本当に当たり前ではないということを改めて認識しました。自分が日々使っている電気も、ENEOS Powerさんを初め、他の電気会社の方々が、日々いろいろなことを考えて、なるべく効率のいいように対策されていることをとても感じました。また、赤レンガ倉庫も横浜の象徴として、長い間色々なことをやってきていて、横浜市民なのに知らなかったり、意外にも全然気づいてなかったり、もっとこうすべきなのだというふう感じたところもあり、とても良い勉強になりました。自分たちもこれを活かしていきたいと感じました。今は、自分たちができることは、伝えていくことしかまだできないので、学校に持ち帰ったりして、しっかり伝えていきたいと思っています。